

## ▶ 沿革

戦後の昭和21年秋に愛知県相撲連盟が徳田善右エ門氏を会長に発足し、この前後に市相撲連盟が徳田善右エ門氏を会長に発足しました。なお、徳田会長はその後、名古屋市体育協会会長、参与として長年にわたり市体協の発展に貢献されました。

当時の加盟団体は、一般で住友金属・新三菱・日本陶器で、高校では全国大会で活躍した中京商業（現中京大中京）・旭丘・東海・愛知商業・愛知等でありました。

その後、先にも述べたように、市連盟と県連盟の会長を長きにわたり兼任された徳田会長を中心に県連盟と連携を図りながら、相撲競技の普及発展と選手強化に努め現在に至っています。

また、相撲連盟は、市体育協会の中でも早くから、市民スポーツ祭や五大都市体育大会の協力団体として活動をしてきました。

次に、高校・中学等の活躍の状況を紹介します。昭和30・40・50年代は中京・名電（現愛工大名電）の両校が凌ぎ割り高校総体や国体で団体優勝をはじめ多くの優秀な成績を収めました。個人では、近藤正勝・宮崎正克・石川周治・後藤哲雄（柝司）・平野展秀（柝剣）・東裕次郎（以上中京高校）、竹内晋峯（名電高校）が優勝者として記録に残っています。

昭和60年以降平成年代では、残念ながら名門中京高校の相撲部が休廃部となり愛工大名電高校が孤軍奮闘し、団体で国体・高校総体で上位入賞を果たしています。個人では、平成21年の高校総体で吉田圭祐（愛工大名電・現アイシン）が高校横綱に輝きました。

中学生では、後藤哲雄（昭48中京中）高橋大輔（平9日比野中）市原孝行（平10御田中）が中学横綱に輝きました。

あまた、大相撲で活躍した力士は、中京出身の柝玉山（神谷静）・柝剣（平野展秀）・柝司（後藤哲雄・入間川）、名電出身の朝乃若（足立武彦・若松）・武雄山（富永喬義・山分）さらに東海出身（藤の川・服部祐児）、その他に玉飛鳥（高橋大輔・熊ヶ谷）、市原（市原孝行）が挙げられます。



## ▶ 近況

### 【会員数】

令和5年現在の状況は、会員数が個人38名、団体数は一般4、高校1、中学・小学3と非常に少ない状況であります。

### 【役員】

会長：中里 高之  
副会長：松永 裕和、三石 敏一  
理事長：宮地 直宣

### 【事業】

大会⇒東海四県高等学校選抜相撲大会（60回）  
市民スポーツ祭相撲競技（65回）  
スポーティブライフ月間相撲大会（教室）  
市体協⇒ジュニア競技力向上事業、審判養成事業

### 【活動方針】

- ・アマチュア相撲の普及発展を図る。
- ・競技力向上、指導者養成をはかる。
- ・底辺拡大を県相撲連盟と協力して行う。
- ・市民スポーツ祭や他の事業は、県内団体にも参加を募り実施し、相撲の普及発展と底辺拡大に努める。
- ・連盟の活動を通じて、市体育協会に協力してスポーツの振興を図る。

## ▶ 今後の展望

近況でも述べたように少子化の影響を受け、また近年の新型コロナの流行で大会への参加者が激減している状況があります。

さらに、国が提唱する小中学校の部活動の地域移行の流れの中で、スポーツ活動の在り方について社会全体で考えなくてはいけない時期にきています。

これは、一競技団体の問題ではないと認識しています。国・自治体・学校・関係者が一丸となって考え、方向性を見つけ実践して行く必要があると考えます。

市相撲連盟は、市体育協会や愛知県相撲連盟と今まで以上に連携を密にして、相撲を通して人間形成の一端を担い社会貢献ができるよう、会長はじめ役員がリーダーシップを発揮し、目標を定め達成に向かって前進したいです。

